

いよいよ次期観測開始が近くなり、今号は巻頭に、Coming 1996/1997 Mars (1)「1996/97年の火星観測暦表(その1)」"Ephemeris for observations of Mars in 1996/97. I" (西田昭徳氏, A NISHITA)が始まった。Sept 1996 ($\lambda=003^\circ\text{Ls}$, $\delta=4.4^\circ$)~Nov 1996 ($\lambda=045^\circ\text{Ls}$)の期間のデータが掲載されている。

LtEは、Wolfgang MEYER (Germany)、Sam WHITBY (USA)、Daniel TROIANI (USA)、Giovanni QUARRA Sacco (GQr, Italy)の各氏からの来信が紹介されている。ジャンニ・クアッラ氏からのものは福井訪問直前のメールである。

Newsとして、BAA Mars Section が 1996/97 Mars Netに参加することがRichard McKIMから寄せられ、また、「火星共同観測についての研究会のお知らせ」が飛騨天文台の赤羽徳英氏から届いている。後者は1998年に打ち上げられた火星探査衛星「のぞみ」(Planet-B)が、1999年に火星周回軌道に入って火星観測をするときのサポートのために計画されたものようであるが、「のぞみ」は、各種トラブルにより火星周回軌道に投入することが出来ずに失敗に終わっている。2003年にも再び試みられたが成功しなかった。例の宣伝くさいネームプレートはどうなったのでしょうか？

「福井だより」ではクアッラ(GQr)氏の初の福井来訪の際の出来事が語られている。筆者(Mk)も参加した集まりで思い出深い。

<http://homepage2.nifty.com/~cmo/GQrIntro.htm>

「藤沢だより」には短くこの集会のための日程のやりとりなどがあ


る。思い出すと、筆者は福井を訪ねたあと、帰路を名古屋から中央西線で木曾川沿いに取り、塩尻で乗り換えて八ヶ岳へ向かったのであった。

他に九月の天象とTen Years Ago (8)がある。TYA(8)はCMO#014 (10 Aug 1986), CMO#015 (25 Aug 1986)の二号分の紹介である。廿年前の火星は1986年接近の最接近直後で12Augに留となって、以後順行に戻るところであった。季節は $\lambda=225^\circ\text{Ls}$ ほどで南極冠内部に濃淡が見られるようになっていた。この期間、Mn氏は臺北でソリス・ラクス付近に発生した黄雲を観測したとある。すぐに沈静化した局所黄雲であった。

「福井だより」に述べられているが、この号のページ数の少ないのは、プリンターのトラブルで印刷原稿作りに支障が出て、筆者が代わりに藤沢で一太郎文書をプリントアウトをしたようである。 村上昌己 (Mk)

ISSN 0917-7388

Communications in Mars Observations


通信 No. 178

25 August 1996

Published by the CMO Mars Section

◆ 1996/97年の火星 COMING 1996/97 MARS (1)

1996/97年の火星観測暦表(その1)

Ephemeris for Observations of Mars in 1996/97. I

西田昭徳 A NISHITA

◆ いよいよ火星の1996/97年のシーズンが近づきました。例によって、火星観測暦表用紙に掲載していただくために必要な事項のみ、分載して行きます。今回は九月から十一月までの分で、毎日のデータを00:00GMTの時点で掲載します。これは基本的にThe Astronomical Almanac (US Naval Obs & Her Majesty's Nautical Almanac Office, BGO)と「天体位置表」(水路部)関係の水路協会のデータを参照していますが、両者ともTDTに準拠しているという違いがありますので、ご注意ください。

ω は中央点経度(中央子午線の西経度)、 ϕ は中央点緯度、Lsは火星から見た太陽の黄経(火星の季節を表すパラメータ)、 δ は視緯度、 ϵ は位相角で、真径の経度の中央子午線からのズレと考慮して差し支えないものです(少々違うのですが)、報告の際は、 δ 以外、 ω 、 ϕ 、Ls、 ϵ とも小数点以下は四捨五入して下さい。

九月1日で δ は4.4秒角、Lsは003°で北半球の春分を過ぎるところです。003°Lsは十月上旬には訪れますので、本雑誌の読者はご注意ください。

◆ The 1996/97 season of the planet Mars is around the corner. We here start showing necessary elements from the Ephemeris for our own sake of the observation of Mars during the 1996/97 apparition. This is the first of the series and shows the data from 1 September 1996 through 30 November 1996. The data are listed for every day at 00:00GMT (not TDT).

ω stands for the longitude of the central meridian, ϕ for the latitude of the sub-earth point, Ls for the areocentric solar longitude, δ for the apparent diameter of the disk and ϵ for the phase angle. We use ϵ to indicate how far the moon line is separated from the central meridian (not exactly however). The phase itself is given by the formula $(1+\cos \epsilon)^2$.

Date (00:00GMT)	ω	ϕ	Ls	δ	ϵ
1 September 1996	31.87°W	13.0°N	002.6	4.4	26.8
2 September 1996	21.96°W	13.2°N	003.1	4.4	27.0
3 September 1996	12.26°W	13.4°N	003.6	4.5	27.1
4 September 1996	2.47°W	13.7°N	004.1	4.5	27.3
5 September 1996	352.85°W	13.9°N	004.5	4.5	27.4
6 September 1996	343.15°W	14.1°N	005.0	4.5	27.6
7 September 1996	323.45°W	14.4°N	005.5	4.5	27.7
8 September 1996	323.74°W	14.6°N	006.0	4.5	27.9
9 September 1996	314.04°W	14.8°N	006.5	4.5	28.0

I S S 7